

同窓会報

No. 16



豊橋技術科学大学



▼豊橋日曜学校、活動のひとこま



▲豊橋日曜学校、社団法人 日本善行会による平成青少年善行表彰式にて(本文特集記事)

1999

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 後藤圭司

平成3年の大学設置基準改正等によって、各種の規制が緩和され、各大学一律ではなく、夫々の長を生かして発展することが求められるようになってきました。これが大学改革ビッグバンと言えます。その後、大学改革は大きく進展していますが、まだ不十分で、改革の状況が社会の側からよく見えていないと言われます。

平成9年10月31日に「21世紀の大学像と今後の改革方策について」文部大臣から大学審議会に諮問があり、平成10年6月30日に中間報告がまとめられた所です。これに対する外部からの意見などを踏まえ、10月頃を目途に答申がなされる予定です。文部省はこれを受けて、所要の制度の改正に着手する運びとなっています。これは大学改革に対する二回目のビッグバンと言えるものであり、各大学は競争環境の中で個性が輝く大学を目指してより一層の努力をすることになります。

中間報告の内容は、複雑化する社会に対処するために、大学の多様化・個性化を求めています。大学院については、国公立大を合わせて学生数は現在の約17万人から、西暦2010年には25万人以上に増えると想定しています。一方、大学学部は状況に応じて縮小も検討することが必要としています。これは少子化の影響で、入学者数が現在より約10万人も少くなると予想されるからです。

具体的な改革案では、教員に責任ある授業運営と厳格な成績評価を求めています。大学学部では、一年間に履修できる単位数に上限を設定し、学生に予習・復習を徹底させるなど、実質的学習の重視を強調しています。例外的措置と

して、在学3年以上での卒業を認める規定も明記されています。大学院については、充実の方針を掲げ、社会人を対象にした一年制コースや長期在学コースの創設が挙げられています。その他、学長を中心とする全学的な運営体制の整備、客観的な評価のための第三者評価機関の設置などが挙げられています。

平成10年2月～3月に名古屋地区をモデルとしてインターンシップ制度が実施されました。これは就業体験を通して学生にその後の勉学の方向を考える機会を与えるものであり、人間教育にもつながる重要科目と言えます。名古屋地区の国公立の25大学等から学部2、3年を主に243名の学生や院生が企業等の98社で2～4週間の就業体験を実施。文系6割、理系4割の参加学生比率であったとのこと。この夏休み期間中にも実施される予定です。本格的な実務訓練を実施している本学は、これに参加する予定はありません。

本学では、今年度に未来技術流動研究センターが設置されました。これは、人類の安全かつ快適な生存を維持しながら自然と共生するための科学技術を創出し、併せて、流動的研究プロジェクトにより物質、材料、通信、物流等の未来生存型技術とプロセスの構築を行い、未来技術の発展に寄与することを目的としています。

終わりに、マルチメディアセンターが開所して今年で3年目を迎え、経過報告書をまとめた所です。同窓生の皆様が本学主催のリフレッシュ教育等に関する事業に多数参加され、ご支援ご協力下さることをお願いいたします。

学内近況報告

機械システム工学系

鈴木孝司

霜気の候、卒業生・修了生の皆様にはますますご健勝のことと存じます。さて、機械システム工学系の近況についてお知らせします。

この1年間、教職員の異動はありませんでした（別表参照）。系長の蒔田先生以下、全員元気で職務に励んでおります。長引く不況の中、巷では大学生の就職難が話題となっておりますが、本系では来春、修了・卒業して就職する予定の学生のうちほぼ全員が夏休み前に内定したようです。これもひとえに卒業生・修了生の皆様が各分野で大いに活躍しておられ、社会的に高く評価されているお陰かと存じます。学生に代わりまして御礼申し上げます。今後も学生の就職活動や実務訓練などでお世話になることがあろうかと存じます。その節は何とぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

[第1講座(熱・流体工学講座)]

教授：三田地紘史, 日比 昭

助教授：北村健三, 柳田秀記,
中川勝文(技術開発センター)

講師：鈴木孝司

助手：中西康彦

[第2講座(エネルギー変換工学講座)]

教授：小沼義昭, 蒔田秀治(系長), 高木章二

助教授：野田 進, 鈴木新一

助手：山本和弘, 関下信正, 内山直樹

[第3講座(機器設計学講座)]

教授：竹園茂男(技術開発センター長兼任),
本間寛臣, 上村正雄

助教授：埜 克巳, 畔上秀幸, 陳 建橋, 関東泰祐

助手：感本広文, 竹市嘉紀(技術開発センター)

教務職員：李 長生

[技 官] 徳増 学, 森川正治, 神谷昌宏

[系事務] 加藤悟司, 野亦真理子

生産システム工学系

竹中俊英

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。当系の近況についてお知らせいたします。

加工学大講座には、森謙一郎教授が大阪大学大学院基礎工学研究科より着任されました。これにより研究室は、塑性加工(森, 牧, 原田), 接合加工(星, 福本, 田中), 精密加工(堀内, 高巢, 池野)となりました。

材料工学大講座では、王磊助手が鳥取大学工学部講師として転任され、福永啓一助手が新規に赴任されました。これにより研究室は、製錬工学(川上, 竹中, 横山), 機械材料(梅本, 新家, 土谷, 福永), 材料保証(小林, 戸田, 井上)となりました。

生産計画学大講座では、堀畑聡助手が講師に昇任され、北島禎二助手が奈良先端科学技術大学院大学より着任されました。一方、橋爪進助手が名古屋大学大学院工学研究科講師として、濱口雅史助手が徳山工業高等専門学校助教授として転任されました。これにより研究室は、システム制御(寺嶋), 計測システム(北川, 三宅, 堀畑), システム解析(清水, 崔, 北島)となりました。

系事務は、竹村(旧姓青木)圭子氏が研究協力係に

異動され、永井静氏が担当されております。

このような異動により、現在の生産システム工学系教職員は以下のような構成となっております。

系のホームページ(<http://plast.tutpse.tut.ac.jp/pse/index.html>)では情報を逐次更新しておりますのでご覧ください。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍・ご発展をお祈りいたします。

[加工学大講座]

教授：星鐵太郎(系長, 工作センター長), 堀内 宰,
森謙一郎(系長補佐)

助教授・講師：高巢周平, 牧清二郎, 福本昌宏,
池野順一(工作センター)

助手・技官：原田泰典, 田中康德, 小楠和彦

[材料学大講座]

教授：小林俊郎, 川上正博, 梅本 実, 新家光雄

助教授・講師：竹中俊英, 横山誠二, 土谷浩一, 戸田裕之
助手・教務職員・技官：福永啓一, 井上直也, 白井宏始

[生産計画学大講座]

教授：北川 孟, 清水良明, 寺嶋一彦

助教授・講師：三宅哲夫, 崔 文田, 堀畑 聡

助手・技官：北島禎二, 椿 正己

[事 務] 永井 静

電気・電子工学系

■ 榊 原 建 樹

初冬の候、卒業生、修了生の皆様には益々ご健勝のことと存じます。慢性的な東三河地区の水不足は、今年、秋の長雨と2つの台風に恵まれ、宇連ダムの貯水率は100%の状態です。

さて、この一年に何人かの先生の異動がありましたので、お知らせ致します。

(1) 基礎電気電子大講座

カバレロフ・ワジム助手：辞職 (H9. 10. 31),
Susquehanna Investment Group (USA) に就職

(2) 電気システム大講座

小崎正光教授：

岐阜高等専門学校校長に栄転 (H10. 4. 1)

長尾雅行助教授：

教授に昇格 (H10. 4. 1)

滝川浩史講師：

助教授に昇格 (H9. 10. 1)

(3) 電子デバイス大講座

澤田和明助教授：

静岡大学助手から昇格 (H10. 4. 1)

[基礎電気電子大講座]

教 授：藤井壽崇, 英 貢(系長),
太田昭男, 小川睦郎

助 授：服部和雄

講 師：内田裕久

助 手：大越昌幸

教務職員：河野健二

技 官：前田勝典

[電気システム大講座]

教 授：恩田和夫, 榊原建樹(系長補佐), 長尾雅行

助 授：滝川浩史

助 手：伊藤衡平, 見目善重, 村本裕二

技 官：日比美彦

[電子デバイス大講座]

教 授：吉田 明, 米津宏雄, 石田 誠

助 授：朴 康司, 若原昭浩, 澤田和明

助 手：大島直樹, 松本佳宣, 吉越章隆,
蔵之内真一(技開センター)

技 官：足木光昭

事 務 官：原 宏充, 深井悦子, 宇津山千恵

このような異動の結果、電気・電子工学系の教職員は上記のようになっております。末筆ながら、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り致します。

情報工学系

■ 川 人 祥 二

卒業生、修了生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。さて、最近の情報工学系の近況についてお知らせいたします。教職員の異動としては、4月から新しく3名の方が着任されています。

まず計算機大講座では、京都大学大学院博士課程を修了された大野和彦先生が助手として赴任されました。

情報処理大講座では、広島市立大学より、栗山繁先生が助教授として赴任されました。

情報システム大講座では、本学大学院博士課程を終えられた合志和洋先生が、教務職員として着任されています。

このような異動等により、現在の情報工学系教職員の構成は、右記のようになっています。

既にご存知と思いますが、マルチメディア大学パイロット事業が平成7年度からスタートし、その一環として、新設の講義室を始め幾つかの講義室に、ハイテク講義室とでも呼ぶべき設備が導入されています。特に情報工学系の講義や発表会等ではこれらの機器が活発に利用され、以前とは発表の様子が様変わりしています。機会があれば、是非大学を訪問され、教官と旧

[計算機大講座]

教 授：中川聖一, 中島 浩

助 授：梅村恭司

講 師：奥山 徹

講 師：高田広章

助 手：峯松信明, 大野和彦

技 官：片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教 授：白井支朗, 金子豊久, 宇野洋二

助 授：戸田尚宏, 栗山 繁

講 師：片山正純

助 手：中内茂樹, 廣田光一, 福村直博

[情報システム大講座]

教 授：宮崎保光, 田所嘉昭, 横山光雄

助 授：後藤信男, 川人祥二

講 師：伊藤大雄

助 手：黄 新民, 上原秀幸

教務職員：合志和洋

技 官：宮脇治雄

交を温めるとともに、最近の大学の様子などに触れてみて下さい。

最後に、教職員一同、卒業生・修了生の皆様のご健康とご発展をお祈りしております。

物質工学系

竹市 力

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。物質工学系の近況をお知らせします。

まず、化学工学研究室教授として9年間にわたり教鞭をとられてきた小松弘昌教授が定年退官され、豊橋技術科学大学名誉教授を受けられました。分離定量分析化学研究室内の武静教務職員が6月で退職されました。そして、本学卒業生でもある斉戸美弘先生がアメリカから戻られて赴任されました。本年度から亀頭直樹教授が系長を、神野清勝教授が系長補佐を務められています。また、事務官の大宮明代さんが学務係に移られ、中村健太郎さんが会計課用度第一係から来られました。現在の物質工学系の構成は右記のようになっています。

就職はここ数年、かなり厳しい状況が続いていますが、最終的には大半の学生が適性にあったところに内定しているようです。卒業生の皆さんが、それぞれの分野で自分の持ち味を活かして益々活躍されることを期待しています。

[工業無機化学大講座]

応用物理化学研究室：亀頭直樹 教授(系長)、
大串達夫 助教授、佐藤裕久 助手

無機材料工学研究室：逆井基次 教授、前田康久 講師、
武藤浩行 助手

無機物性工学研究室：角田範義 助教授、水嶋生智 講師、
大北博宣 教務職員

[工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室：神野清勝 教授(系長補佐)、
平田幸夫 助教授、斉戸美弘 教務職員

生 化 学 研 究 室：青木克之 教授、吉田祥子 講師、
似内 靖 助手

[工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室：伊藤浩一 教授、伊津野真一 助教授、
川口正剛 助手

応用有機化学研究室：西山久雄 教授、岩佐精二 助教授、
本山幸弘 助手

複合材料工学研究室：竹市 力 助教授、西宮伸幸 助教授、
松本明彦 助手

[分析計測センター]

状態分析化学研究室：加藤正直 助教授、服部敏明 助手

[技 官] 太田初一、斉藤年秀

[事務官] 中村健太郎

建設工学系

北尾 高嶺

卒業・修了生諸兄弟におかれましては、長びく不況と金融不安、さらには緊縮財政による未曾有の逆境のなか、御健闘のことと存じます。直ちに好転の兆しは見られないものの、悪いことばかりそう長く続くものではないだろうと、希望も含めて思っております。

この一年間における人事異動は比較的少なく、構造大講座辻子裕二助手が福井工専に戻られ、環境大講座東信行助手が母校弘前大学助教授となられ、後任として小出水規行助手が着任されました。現在の構成は右記の通りであります。

初期の卒業・修了生の皆様の中には、懐かしい名前がかなり減ってしまって、大学へ出掛けて行っても自分のことを憶えてくれている先生が居なくなってしまったと、淋しく思っておられる方もおられることでしょうか。去る者は日に疎しとかで、母校がますます疎遠に感じられることもあるでしょう。

しかし、人は代っても組織としての継続性は保たれており、諸兄弟に対する気持は何ら変わるものではありません。逆にわれわれの側でも、この困難な時節柄、就職等に関して、いっそう諸兄弟の力を借りなければならない場面が多くなると思います。

今後共、いっそう連繋を密にして難局に対処しましょう。

[構造大講座]

教 授：加藤史郎、角 徹三、栗林栄一

助 授 授：山田聖志、田中仁史、河邑 真

助 手：高島英幸、河野 進、蔣 建群

技 官：金田隆文

[環境大講座]

教 授：本間 宏、中村俊六、北尾高嶺

助 授 授：松本 博、青木伸一、西村和之

助 手：小出水規行

教務職員：山本一伸

技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教 授：三宅 醇、渡邊昭彦、廣島康裕

助 授 授：大貝 彰、加藤彰一、泉田英雄

助 手：吉田友彦、野沢隆秀

教務職員：山中正樹

[事務]

本間佳代子

[学生現員]

学部：1年次24名、2年次34名、3年次75名
4年次82名

修士：1年次62名、2年次50名

博士：1年次4名、2年次1名、3年次4名

知識情報工学系

市川 周一

知識情報工学系の卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本系では昨年度から本年度にかけ

て非常に多くの人事異動がありましたので、お知らせいたします。

まず、平成9年度末で伊藤嘉房教授が本学を停年退官されました。本年度からは愛知学院大学情報社会政策学部にて教鞭をとられています。ラザフィマナンテ

ナ助手も平成9年度末にて本学を離れ、故国のマダガスカルに帰国されました。(旧)齊藤研の徐粒助手は、平成10年度4月1日に朝日大学経営学部講師として転出されました。

平成10年度4月1日付けで、滝沢穂高先生が機能情報工学大講座に助手として着任されました。同じく4月1日付けで、加藤博明先生が分子情報工学大講座に助手として着任されました。さらに6月1日付けで、奈良先端大から石田好輝先生が教授として情報科学大講座に着任されました。7月1日付けでは、豊田工業大学から杉浦彰彦先生が機能情報工学大講座に講師として着任されました。

本稿執筆時(8月)の知識情報工学系の現況を別表にまとめますので御覧下さい。本年度は今後も、9月1日付けで分子情報工学大講座に後藤仁志助教授が着任予定、10月1日付けで機能情報工学大講座に堀川順生教授と金澤靖講師が着任予定となっております。数多くの新任教官を迎え、スタッフ一同、本系の研究・教育活動をより一層充実させるよう努力してゆく所存です。

本系の情報は、WWWにて以下のURLで御覧になれます。最新の情報に付きましては是非WWWの情報をご参照ください。

<http://www.tutkie.tut.ac.jp/>

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の御健康と、ますますの御活躍をお祈り申し上げます。また、後輩の就職や実務訓練などで何かとお世話になることもあろうかとおもいます。その際にはくれぐれもよろしくおねがい申し上げます。

エコロジー工学系

野田 玲 治

エコロジー工学系が平成5年度に設立され、本年度で6年目を迎えました。これで、学部ならびに修士の全学年が揃ったこととなります。修士1期生の就職状況は、不況のせいもあり、それほど芳しいものとはいえませんでした。それでも9月現在でほとんどの学生が内定を得ることができております。

平成10年9月現在での本系教職員および学生現員は別表の通りです。系長ならびに系長補佐は、昨年に引き続き鈴木慈郎先生と笠倉忠夫先生が務めておられます。

大竹一友先生は、昨年7月から外務省・国際協力事業団(JICA)インドネシア高等教育開発計画長期派遣専門家としてインドネシア・メダンへ赴任されていましたが、9月26日のインドネシアでの航空機事故でご逝去されました。系設立にご尽力され、エコロジー工学系の先導者としての役割には多大なものがありました。志半ばにして急逝されたことは、痛恨の極みであり、心よりご冥福をお祈りいたします。

教職員の異動については、村松東先生が、3月で大学を辞職されオフィスサポートセンターに就職されました。新たに助手として、昨年10月から松尾隆嗣先生が、さらに4月から後藤尚弘先生(日本エヌ・ユー・エス)、高島和則先生(東京大学大学院博士課程修了)、

[情報科学大講座]

教 授：磯田定弘、増山 繁、石田好輝
助 授：河合和久、赤松 隆
講 師：市川周一
助 手：吉田 敦、吉岡貴芳

[分子情報工学大講座]

教 授：大澤映二、阿部英次、スラニナ・ゼネック
助 授：高橋由雅、船津公人
助 手：栗田典之、小澤理樹、加藤博明

[機能情報工学大講座]

教 授：山本真司
助 授：杉田陽一
講 師：杉浦彰彦
助 手：滝沢穂高

[事務室]

教 務 係(技官)：小西和孝
学 系 係：熊谷政希

[学生現員(平成10年4月1日現在)]

学 部：1年次16名、2年次11名、
3年次55名、4年次62名
修 士：1年次38名、2年次50名

野田玲治(本学大学院博士後期課程修了)の3名が着任し、倉田学児先生が教務職員から昇任されました。また、Instituto Superior Portugalから袁建偉先生が助教授として着任されています。事務の大原美枝子さんは、倉田先生と結婚・退職され、代わって上村洋子さんが事務員として仲間入りしています。

[生物基礎工学講座]

教 授：鈴木慈郎、菊池 洋
助 授：平石 明、S. S. Siddiqui、桂 進司
助 手：松澤有希子、松尾隆嗣、田中照通、
安田八郎
技 官：坂井悦子

[生物応用工学講座]

教 授：水野 彰、藤江幸一、笠倉忠夫
助 授：辻 秀人、胡 洪營、田中三郎
助 手：高島和則、後藤尚弘、野田玲治

[生態環境工学講座]

教 授：北田敏廣
助 授：袁 建偉、成瀬一郎、金 熙濬、木曾祥秋
講 師：Del Calpio C. A.
助 手：倉田学児

[事 務]

石黒真樹、上村洋子

[学生現員]

学 部：1年次12名、2年次10名、3年次51名、
4年次61名
修 士：1年次50名、2年次38名

近年、「ゼロエミッション」や「エコ～」という言葉をよく耳にするようになりました。このような、社会的機運の盛り上がりに対して、本系としてどのような提案ができるのか、あるいは真のエコロジー的な社会を実現することができる人材を如何にして送り出すことができるか、といった点を考慮しながら、エコロジー工学という新しい学問体系を創成して参ります。

エコロジー工学系の最新情報は下記URLからアクセスできます。コンテンツも充実して参りましたので、是非一度ご覧下さい。

<http://www.eco.tut.ac.jp>

最後に、同窓会の皆様のより一層のご健康とご発展をお祈りいたします。

人文・社会工学系

加藤 三保子

人文・社会工学系および語学センター、体育・保健センターのスタッフは以下のとおりです。

英語を担当していた野澤和典先生が4月から立命館大学へ転出されました。その後任として結城正美先生(専門はアメリカ文学)が9月1日付で赴任されました。また、藤原孝男先生が4月1日に計画経営講座の教授として赴任され、今年度は9系の顔ぶれが少し変わりました。

語学センターの野村武先生と、体・保センターの寺澤武先生は、今年度いっぱい定年退官なさいます。なお、3月に定年退職された大呂義雄先生には名誉教授の称号が授与されました。4月からは愛知大学経済学部教授として新たに勤務なさっています。

[人文・社会工学系]

教授：浜島昭二(系長)、藤原孝男、山内啓介、山口 誠、宮田 譲

助教授：相京邦宏、尾碇一志、加藤三保子、西村政人、平松登志樹

講師：村松由起子

助手：渋谷博幸

外国人教師：リチャード・マーシャル

事務職員：山崎雅子

[語学センター]

教授：伊藤光彦、小杉隆芳、野村 武、山本 淳(センター長)

助教授：河合弓子

助手：結城正美

教務職員：鈴木聖子

[体育・保健センター]

教授：寺澤 猛、安田好文(センター長)

助教授：大貝 彰

「最新の研究情報」の発行

本学教官の最新の研究動向を社会に広く迅速に公開するため平成4年から毎年「最新の研究情報」誌を発行していますが、このたび平成10年5月現在の最新号を発行しました。

これは、主として共同研究、技術相談など産学交流に役立てていただくため、昭和61年度から発行してきた教官研究課題一覧を見直し、充実を図ったものです。

内容は、1人1ページ、各研究テーマごとに「研究概要」を非専門の中間管理職の方にも分かり易いように紹介し、「キーワード」を設ける等、他大学にはない新しい試みで編集してあります。

また、目的の情報に効率よくアクセスできるよう目次欄で詳細な研究分野を網羅しました。

各教官自身で作成した原稿をそのままダイレクト印刷して、2,000部を発行しました。まだ余部がありますので、御希望の方は角2型(33cm×24cm)封筒に返信先を記入、返信料340円切手を貼付し、次の申込先にお送りください。

なお、本年度版がなくなった場合は、少々お待ちいただき来年度版をお送りしますので御承知ください。

「最新の研究情報」(平成10年5月現在)

申込先：

〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学教務部

研究協力課研究事業係

Tel. 0532-44-6574 (ダイヤルイン)

平成9年度

退官教官より



物質工学系 教授

こまつ ひろまさ
小松 弘 昌

退官に際して — 学生の皆さんへ

昭和64年1月1日付けの辞令で、平成と共に本学に赴任した形となりましたが、早いもので9年が過ぎました。前任校の沼津高専に19年と余月勤務し、学生主事、教務主事を経験した関係からか、赴任早々の平成元年から平成6年まで学生生活委員会の仕事をお手伝いさせていただき、その間副委員長、委員長をつとめさせていただき、学生の皆さんとは学生生活の面でもお付き合いさせていただきました。東国体(東海地区国立大学体育大会)、技科大祭、開学記念駅伝等の行事や交通事故防止、駐車場、福利厚生施設の問題等々思い出すことがいくつもあります。

学生の皆さんは正課から学んだ知識と学生生活から得た経験を生かして、大学生としての良識を養い、緊密な人間関係を見出し、社会人としての品性を身につけるための人格形成を図って、学舎を去るわけです。そこに「教育・研究と並んで学生生活をいかに有意義に送るかが大切である」とする所以があると思います。

65才を過ぎ定年を迎えますが、未だ経験も浅く、皆さんのこれからの人生に役立つような言葉を述べることはできませんが、それぞれの道に傑出した人物の体験と日頃の精進から生み出された名言を借りて、皆さんへ送る言葉といたします。

「人生とは出会いであり、その招待は二度と繰り返

されない。」ハンス・カロッサ、ドイツの詩人作家。人生と云う時の流れの刹那刹那が出会いであり、人は常に新しい人、新しいもの、新しい感情と出会う中で生きている。しかもそれは二度と繰り返されない。そしてまた、その一つの人生は一人の人間にとって唯一のものであり、修正の決して出来るものではない。それは過去としてそこに歴然と残る。人生は出会いと選択の連続であると言の意味であります。

「生きるための職業は魂の生活と一致するものを選ぶことを第一とする。」阿部次郎(三太郎の日記)。職業の選択は何人にとっても、その人生の最大事であり、人は今の職業を如何にして選択したかと言えば、生活のため、立場上、または、偶然の成り行き、あるいは、幾つかの会社を受験してそこに合格したから等々あるかも知れません。「魂の生活と一致するもの」とは、その仕事が自分の心に添うもの、心からその仕事をするに満足を感じるもの。しかし、自分の希望がはっきり分かったとしても、いろいろの事情があつて、なかなか意のままに叶うものではありませんが、けれども、心から楽しめる仕事を選ぶことを念頭に置けと言の意味であります。

「自信は成功の第一の秘訣である。」ラルフ・W・エマースン、アメリカの哲学者。自信がなく不平ばかり言っているような人には成功などはおぼつかない。自信を持って仕事であれ、研究であれ、それに当たれば、多少の困難に音をあげることもなく、ものの在り方、方向を見失うことはなく、そこに勇氣と希望が生まれると云う意味。如何に自信を持つかが問題ですが、先ず、自分の力を見極めて、自分に出来る方法でその事を成し遂げるよう考えること、そのためには仕事を十分に検討し、対象を知り、自分の力と可能な方法を知れば、必ず成功すると云うことであります。

最後に、よく師弟の關係に用いられる格言「青は藍より出でて藍よりも青し。」、出藍の誉れ。教えを授けた師よりも、教えを受けた弟子の方が秀でた学者(人物)に成れということ。纏まりのつかないことを記しましたが、人生の出会いと選択を大切に、信頼できる人間関係を保ち、自信と勇氣と希望を持って、自分の人生をより良きものに築き上げられることを期待します。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第60号(H10.3.23発行)に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。



知識情報工学系 教授

いとう よし かつら
伊藤 嘉房

もう一つの青春があった

この3月に停年を迎える。半生を振り返り、その間の時代の変化を省みて、揺れと振幅の大きさに息を嚔む。学生諸君は今、平和な時代の青春を謳歌しているが、ほんの少し前には全く異なる青春があった。私の最後の贈り物として、60有余年間に見聞してきた事実を諸君に伝える。自分の頭で考え、物事の根元を見極める事の重要性を察して頂きたい。

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝国
天皇ハ……茲ニ米国及英国ニ對シテ戦ヲ宣ス朕力
陸海軍將兵ハ全力ヲ奮ッテ交戦ニ従事シ……億兆
一心国家ノ総力ヲ挙ケテ征戦ノ目的ヲ達成スルニ
遺算ナカラムコトヲ期セヨ……皇祖皇宗ノ神靈上
ニアリ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業
ヲ恢弘シ……東亜永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝国ノ
光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

裕仁 [印] 昭和十六年十二月八日 内閣総理大臣
兼内務大臣陸軍大臣 東条英機、文部大臣 橋田
邦彦、……、商工大臣 岸 信介、……

これは我々が歴代の天皇名などとともに暗唱を強制された1941年12月8日の宣戦布告の詔書の一部である。句読点はない。我々の世代は、猛烈に皇国思想を刷り込まれた。皇民教育である。皇国思想とは皇祖天照大神を中心に組織された神道が事実上の国教であり、天皇は神聖にして犯すべからざる現人神であり、政治的にも絶対権を持つという考え方である。帝国憲法は天皇のこの絶対権を保証していた。

天照大神は太陽神であり伊勢神宮の祭神である。日の丸はその象徴であった。それ自体のデザインは悪くないが、もとは薩摩や幕府の海軍旗であった。明治政府によって国旗と格付けされ、皇祖の象徴と意味づけ

られて、皇軍（日本軍）兵士を鼓舞し、彼らを戦場に駆り立てる役割を担うことになった。日本は神州であり皇民（日本民族）は他民族に対して絶対的に優れているというのも皇国思想の一部である。我々は中国人、朝鮮人、東南アジア人を蔑称で呼ぶように習慣づけられ、民族差別意識を植え付けられた。朝鮮人慰安婦、南京大虐殺、細菌兵器の問題はこの差別意識と無関係ではない。細菌兵器の中国人被験者の屍体は丸太と呼ばれた。

皇民教育は何をもたらしたか。一例だけ挙げておく。突撃は一種の人海戦術である。大量の歩兵が日の丸を背後に、銃をもって敵陣に突進するのである。当然敵の銃撃を受け、大勢の者が戦死するが次から次へと新手が投入され、彼らが僚兵の死体を乗り越えて突進し、最後にそれなりの纏まった兵力が敵陣に到達するという戦法である。戦死者が多くなれば徴兵は若年者に及ぶ。「五尺の命、投げ打って……」は学徒動員を賛美する軍歌の一節である。これが当時の青春であった。

多くの兵士を自殺行為ともいえる突撃に駆り立てたのは皇民教育である。戦死は天皇のための死であり、天皇のために死ぬのは最高の美徳と教えられた。多くの皇軍兵士が、最高の美徳を全うしたと信じ、「天皇陛下万歳」と叫びながら死んだ。そして靖国神社に神として祭られた。太平洋戦争が終わりに近づき敗色濃厚になると自殺行為はエスカレートし、特攻隊が組織された。隊員は命令を受けると爆薬を詰め込んだ小型飛行機あるいは小型高速艇を操縦し、敵の艦船をめがけて突っ込み自爆した。

朕深く世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ持ッテ時局ヲ收拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク 朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ對シソノ共同宣言ヲ受託スル旨通告セシメタリ……米英二国ニ宣戦セル所以モ亦實ニ帝国ノ自存ト東亜ノ安定トヲ……加之敵ハ新ニ殘虐ナル爆弾ヲ……終始東亜ノ開放ニ協力セル諸盟邦ニ對シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス……忍ヒ難キヲ忍ヒ……朕ハ茲ニ二国體ヲ護持シ……神州ノ不滅ヲ信シ……

裕仁 [印] 昭和二十年八月十四日 内閣総理大臣
鈴木貫太郎、……

これは1945年のポツダム宣言受託の詔書の一部である。極東裁判の結果、軍人出身の東條は絞首刑となり、官僚出身の岸は巢鴨形務所で服役した。元生理学者の橋田は自ら命を絶ち、天皇は「朕は現人神にあらず」と宣言した。日の丸は姿を消した。時代は180度転回したと言われた。

その後、岸は出所して首相となり、A級戦争犯罪人として処刑された東條以下14名は神として靖国神社に合祀され、首相・閣僚の靖国神社・伊勢神宮参拝が始まった。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第60号（H10.3.23発行）に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。



人文・社会工学系 教授

おおし よしお
大 呂 義 雄

豊橋技科大での 英語教育20年

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。バラの面差し、紅の唇、しなやかな肢体ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。」(サムエル・ウルマン、宇野・竹山訳)

「光陰矢のごとし」とか、「光陰人を待たず」という言葉がある。「光」とは日のことであり、また「陰」とは月のことで、速やかに移り変わる月日を表現している。昭和53年4月に赴任してからあつと言う間に20年が経ち、ここに定年退職をすることになった。

第1回生の選抜試験は、まだA棟、B棟が建築中だったので河合塾の建物を借り、採点は駅の北にある商工会議所の会議室を借りて実施した。

赴任当初は牟呂町にあった或る紡績会社の、平屋で木造の廃屋を官舎の一部として大学が借りて、そこで学生諸君と一緒に生活した。今で言う単身赴任であるが、当時を振り返ると、現在の技科大の堂々とした佇まいに昔日の面影を伺い知る由もない。

本学では国際交流、国際的な感覚の養成が建学の柱となっており、そのために英語教育は人文・社会工学系に課せられた大きな責務であった。しかし当初から多様な学生を受け入れなければならず、英語学力到達度が異なる学生をクラスでどのように教育し、如何に成果を挙げるかは英語教官にとって難題であった。歴史や伝統がある古い大学と違って、新しい大学では何事も一から自分たちで作らなければならなかった。

その時に思い付いたのは、昭和46年に1年間アメリカで研究をしていた時、見聞した英語教育の体系であった。私がいた大学では、英語学力の低い留学生達は正規のカリキュラムを受講する前に、英語学力テストを受け、一定のレベルに達しなければ希望科目が受講できず、0単位の英語の補習クラスを受講しなければならなかった。その制度にヒントを得て、本学にその体系を導入することにしたのである。

先ず、学生の英語学力到達度を正確に把握する必要があった。そこでアメリカで市販されていたCELTというテスト問題冊子を購入し、その中からセレクトしてPlacement Test (PT)として使用した。昭和54年に新設された語学センターの1室で、そのテストによって選んだ30名ほどの学生を集め、毎週土曜日の午後に私独りで始めたのが英語のRクラス (Remedial Class) であった。

このPT用のテスト問題は、7、8年間ほど同じものを使用した。従って1年次の学生では4年間の、高専からの3年次編入学生では2年間の学力向上の度合いを追跡調査することができた。当初この英語Rクラスは単位が無く、学生諸君には不評であったが、このレメディエーション (補習授業) の効果が認められ、やがて教務委員会からの提案で正規の科目として時間割に組み込まれるようになり、更に0単位から普通の英語の授業と同じ0.5単位が与えられるように改善された。10数年継続した後、数年前に実施されたカリキュラムの大綱化に伴って、この制度は発展的解消という経緯を辿った。

「新構想大学」にふさわしい英語教育のあり方を模索し、各系の教官達と、時には口角沫を飛ばす議論を積み重ねて、今日の英語教育の体系が出来上がったのである。

一昨年、地元の新聞がこの地方の大学のレメディエーションについて調査した結果を公表した。本学では既にその役目を終えて、現在では英語基礎Iや英語基礎IIとして集中的な授業に衣替えをしているが、その時、他大学に先んじて本学が英語Rの授業を実施したことは正しかったのだと自負の念を感じた。

開学20周年を終えた今、教職員、学生が一体となって感じた嘗ての燃えるような「創造の喜び」はない。しかし、人間に譬えると成人式を迎えた本学が常に若々しくあるためには、先輩達の築いた既存のものに安住して老成するのではなく、開学当初のあのたくましい意志、豊かな想像力、炎える情熱を持続させて、常に「理想」を目指し、一步一步前進することであろう。

学生諸君の健闘を祈って筆を置く。

この原稿は、「雲雀ヶ丘だより」第60号 (H10. 3. 23発行) に掲載されたものを、ご本人及び学生課の了承を得て転載したものである。

研究室だより

材料保証学研究室の近況

機械・構造システム工学専攻博士2年

高橋 明 宏



卒業生、修了生の皆様には、お元気で益々ご活躍のことと存じます。

さて、最近の材料保証学研究室の近況をご報告いたします。現在、小林俊郎教授を中心に、昨年度1月にスズキ(株)から戸田裕之助教授、同じく4月にサッポロ産機(株)から井上直也教務職員が着任され、熱の入った研究活動を続けております。一方、我々はもちろん、諸先輩方もご存じの山本勇先生は、昨年度大阪教育大学に助教授として転出されました。また一昨年から岡崎志乃さんが秘書として仲間入りいたしました。このように昨年度は、先生方の異動が相次ぎまして、研究室の雰囲気が変わってきております。

さて、学生に目を移します。現在の構成は、博士

後期課程6名、修士課程二年4名、同じく一年が5名、学部生7名の総勢22名であります。研究室の特徴として、博士後期課程の学生が多いことが挙げられます。6名のうち、半分の3名が社会人の方方で、職場の業務に加え、大学でのご研究をこなしており、より生きた情報を我々に伝えてくれます。

研究は、「破壊に対する材料の強靱化」を主題にして、各種工業用材料および先端複合材料を扱ったテーマとなっております。研究概念を大別しますと、

- (1) 破壊力学に立脚した破壊特性評価法の開発に関する研究
- (2) それを応用した各種材料の評価と材料のミクロ組織的な解析とを融合する研究
- (3) 以上の両研究の結果をフィードバックして、材料の強靱化を達成する研究

となっております。最近立ち上がった研究として、アルミニウム基複合材料線材の開発、半溶融アルミニウム合金、圧電素子およびコンデンサ材料の破壊特性、そしてスマートマテリアル材(Ti-Ni粒子強化チタン基合金)の製造など盛りだくさんで、興味深いテーマばかりであります。

諸先輩の皆様、当時に比べかなり様変わりしたと思いますが、研究室に足を運んでみませんか。一度覗いてみようかな、という気楽なお気持ちで結構です。ご来校を心よりお待ちしております。なお、WWWホームページを開設しております。研究室の状況について、詳しくはこちらをご覧ください。

<http://alroom.tutpse.tut.ac.jp/efpm/>

信号処理（田所・川人）研究室の近況

電子・情報工学専攻博士1年

野口 健太郎



修了生・卒業生の皆様、お元気でしょうか。皆様は、それぞれの職場でご活躍されていることと思います。

現在の信号処理研究室は、田所先生、川人先生、合志先生(本年度から教務職員)の指導で、学生は額に汗して研究に励んでおります。学生は、博士課程が4名(うち留学生2名)、修士課程が10名、学部の4年生が8名(うち留学生1名)の計22名です。数年前の研究室を考えると、かなり学生数が少なくなりました。

現在、本研究室では、田所先生の指導の下で、視覚障害者支援システム、移動体追尾システム、採譜システム、マルチレートデジタル信号処理、適応アルゴリズムの開発などを行っています。また、川人先生の指導の下で、高感度マイクロフラックスゲ

ート磁気センサのための高分解能センサーインターフェース、CMOSイメージセンサインターフェースに関する研究などを行っています。最近、テレビや新聞などで視覚障害者支援システムや、画像圧縮符号化機能を持つスマートCMOSイメージセンサなどが紹介されました。

研究室の日常は、朝早く?から夜中まで一生懸命研究を行い、夕方には体力ゼミ(ジョギングや水泳)を行なう毎日です。学生は、学会、論文、研ゼミなどの締切に追われる日々を、楽しみながら時には苦しみながらも、研究成果を出し続けています。新歓コンパ、海水浴、豊川シティマラソン、芋煮会、駅伝大会、忘年会、追いコンなども、先生共々楽しくやっております。最近の駅伝大会では3位入賞はするものの、なかなか優勝カップには手が届いておりません。(ただ、富士山登山だけは…)

最後になりましたが、豊橋に来られた時には是非研究室へお立ち寄り下さい。また、我々の研究室のホームページを開設していますので、お時間があれば以下のURLを覗いて見て下さい。

<http://www.signal.tutics.tut.ac.jp>

早朝野球チームkidsのページも、あわせて一度ご覧下さい。

(<http://www.signal.tutics.tut.ac.jp/~kids>)

角研究室の現況

建設工学専攻修士1年

桶谷 秀人

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私達も日々、先生方の的確な指導、助言の元研究、勉強に励んでおります。

さて現在の本研究室の構成は、角徹三教授、河野進助手の教官2名と松野先生(国内留学)、修士2年3名、修士1年3名(うち留学生1名)、学部4年5名の計14名で構成され、日々研究に励んでいます。松

野先生は本研究室OBであり、現在呉高専で助手を務められていて、今年1年間だけ本大学において国内留学ということで研究、また御指導くださっています。また修士1年に中国からシュウさんが留学生として来られています。私自身海外の方と接する機会がなかったので、最初言葉の壁があり戸惑いましたが、肌で国際化の波を感じ取る事ができ特に文化

の違いに驚きました。

また当研究室では4月からほぼ毎月のようにコンパを行っていて、8月には表浜でバーベキュー大会を行うなど研究以外でも活発な活動を行っています。この習慣はOBの皆様方の時代から続いている伝統だと思っているので今後も継続していきたいと思っています。

さてここで現在進められている本研究室の研究テーマを紹介させていただきます。大きく分けて、下記の4項目となっています。

- (1) 炭素繊維シートを用いた付着割裂補強効果
 - ・ Schmidt-Thrö型
 - ・ キャンチレバー型
 - ・ 実部材を想定したRCばり
- (2) 連続繊維補強筋 (FRPロッド) の付着性能に関する研究
- (3) 有限要素法を用いたコンクリート打継ぎ面の接着性能評価
- (4) 既存鉄筋コンクリート建物の耐震診断と補

修・補強工法の開発

最後になりましたが、私達角研究室においてもホームページが開設されておりアドレスは

<http://mmd5.tutrp.tut.ac.jp/kaku/>となっています。もし豊橋に来られた時は是非大学、当研究室にお立ちより下さい。研究室一同、心からお待ちしています。



角研究室 (98年8月 表浜にて)

藤江・胡研究室の近況

エコロジー工学専攻修士1年

井 上 徹

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場にて大いに活躍のことと思います。

さて現在の藤江・胡研の教官構成は、藤江幸一教授を筆頭に、胡洪営助教授、そして本年度より後藤尚弘助手が加わり、さらに博士研究員2名による強力な研究室となってまいりました。しかし、各教官とも相変わらず出張が多々あり、涙流す学生も多いようです。また学生は、博士課程1名、修士課程2年6名 (内1名中国留学中)、修士課程1年4名、学部4年7名の計18名で構成されています。

本研究室の主な研究として「超臨界水反応を利用した廃棄物・未利用物質の資源化に関する研究」、「地域ゼロエミッションプロセス化の予測および評価」、「河川水質・生態系の新しいモニタリング手法の開発」を手掛けております。

また研究室内には常に活発な雰囲気、長時間に及ぶ熱い議論が絶え間なくかわさっております。

学生I:「今年は超臨界水の利用がメインテーマだけど、超臨界水ってなに?」

学生S:「よく判らないけど、超臨界水ってすごいらしいよ。」

学生K:「ふーん、そうなんだ。で役に立つの?」

学生S:「……」

教官K:「いいからはやくやって!」

このような会話は時々かわされる程度で、柔軟な思考と率先した実験をモットーに日々努力を重ね、未来の技術を模索しています。

最後になりましたが、本研究室のホームページ <http://fujielab.eco.tut.ac.jp> が開設されています。また、OG、およびOBの皆さん、豊橋へ来られたときには是非本学、本研究室へお立ち寄りください。研究室一同お待ちしております。



第47回東海地区国立大学体育大会成績一覧表

日 時：平成10年6月27日～28日 当番校：愛知教育大学
平成10年7月4日～5日

項目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1 陸上競技	男	岐大 10	名大 8	愛教大 6	静大 5	三重大 4	名工大 3	豊技大 2	浜医大 1	
	女	愛教大 8	三重大 6	静大 5	岐大 4	名大 3	浜医大 2	豊技大 0		
2 水泳	男	名大 10	岐大 8	静大 6	三重大 5	愛教大 4	浜医大 3	名工大 2	豊技大 1	
	女	岐大 10	浜医大 8	愛教大 6	名大 5	静大 4	三重大 3	名工大 2	豊技大 1	
3 硬式野球		愛教大 8	名大 6	(静大・名工大 4.5)		(豊技大・三重大・岐大 2)				
4 準硬式野球		浜医大 10	愛教大 8	(三重大・名大 5.5)		(豊技大・岐大・名工大・静大 2.5)				
5 テニス	男	(豊技大・三重大・浜医大・名大・岐大・名工大・静大・愛教大)								オープン
	女	(豊技大・三重大・浜医大・名大・岐大・名工大・静大・愛教大)								オープン
6 ソフトテニス	男	名大 10	三重大 8	岐大 6	静大 5	名工大 4	豊技大 3	愛教大 2	浜医大 1	
	女	名大 6	岐大 5	三重大 4	愛教大 3	浜医大 2	静大 1			
7 バasketボール	男	三重大 10	岐大 8	名大 6	豊技大 5	静大 4	名工大 3	愛教大 2	浜医大 1	
	女	静大 6	愛教大 5	三重大 4	名大 3	岐大 2	浜医大 1			
8 バレーボール	男	岐大 10	愛教大 8	名大 6	三重大 5	静大 4	浜医大 3	豊技大 2	名工大 1	
	女	愛教大 5	岐大 4	名大 3	三重大 2	静大 1				
9 卓球	男	名大 8	名工大 6	静大 5	愛教大 4	三重大 3	岐大 2	豊技大 1		
	女	愛教大 5	静大 4	三重大 3	岐大 2	名大 0				
10 バドミントン	男	静大 10	岐大 8	名大 6	豊技大 5	名工大 4	三重大 3	浜医大 2	愛教大 1	
	女	名大 10	岐大 8	三重大 6	静大 5	名工大 4	浜医大 3	愛教大 2	豊技大 1	
11 サッカー		愛教大 10	静大 8	名大 6	名工大 5	三重大 4	岐大 3	浜医大 2	豊技大 1	
12 ハンドボール	男	愛教大 10	名大 8	岐大 6	豊技大 5	名工大 4	三重大 3	浜医大 2	静大 0	
	女	愛教大 4	岐大 3	三重大 2	静大 0					
13 柔道		岐大 8	三重大 6	(豊技大・名工大・静大・愛教大 3.5), 浜医大 0						
14 剣道	男	岐大 10	名大 8	静大 6	三重大 5	愛教大 4	名工大 3	浜医大 2	豊技大 1	
	女	岐大 6	名大 5	愛教大 4	静大 3	三重大 2	浜医大 1			
15 体操	男	静大 5	岐大 4	名大 3	名工大 2	三重大 1				
	女	静大 4	岐大 3	愛教大 2	名大 1					
16 馬術		名工大 6	愛教大 5	三重大 4	(名大・岐大・静大 2)					
17 空手道	男	名大 8	浜医大 6	名工大 5	三重大 4	岐大 3	豊技大 2	静大 0		
	女	浜医大 4	岐大 3	名大 2	愛教大 1					
18 弓道	男	静大 8	名工大 6	(三重大・浜医大・名大・岐大・愛教大 3)						
	女	静大 8	三重大 6	岐大 5	愛教大 4	浜医大 3	名工大 2	名大 1		
19 アーチェリー	男	愛教大 4	三重大 3	岐大 2	静大 1					
	女	愛教大 4	三重大 3	岐大 2	静大 1					
20 少林寺拳法		名大 8	三重大 6	愛教大 5	静大 4	(豊技大・岐大・名工大 2)				
総合順位	男	名大 111.5	岐大 99.5	愛教大 87.5	三重大 84.5	静大 83.5	名工大 66.5	豊技大 38	浜医大 36	
	女	岐大 57	愛教大 53	静大 42	三重大 41	名大 39	浜医大 24	名工大 8	豊技大 2	

(備考) 表中の大学名の右数字は得点を示す。

平成9年度 卒業・修了予定者就職先一覧

平成10年2月20日現在

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
一般企業					
1	アイシン・エイ・ダブリュ(株)		3		3
2	アイシン化工(株)		1		1
3	アイシン精機(株)		1		1
4	アイセロ化学(株)		2		2
5	愛知機械工業(株)		1		1
6	(株)AIHO		1		1
7	旭化成情報システム(株)		1		1
8	旭硝子(株)		1		1
9	(株)朝日工業所		1		1
10	旭有機材工業(株)		1		1
11	(株)アツミテック		1		1
12	(株)新井組		2		2
13	(株)アルソア央粒		1		1
14	アルパイン(株)		2		2
15	(株)アルファシステムズ		1		1
16	アルメタックス(株)			1	1
17	安藤建設(株)		1		1
18	石川島播磨重工業(株)		1		1
19	伊原電子工業(株)		1		1
20	岩井社会保険労務士事務所		1		1
21	(株)インテリジェントテクノロジー		1		1
22	宇部情報システム(株)		1		1
23	梅本石油(株)		1		1
24	(株)浦野設計		1		1
25	(株)イトコンサルタント		1		1
26	エヌエスケー・ワーナー(株)		1		1
27	NOK(株)		1		1
28	NTN(株)		1		1
29	NTTソフトウェア(株)		1		1
30	NTT東海移動通信網(株)		1		1
31	(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ		2		2
32	NTT北海道移動通信網(株)		1		1
33	(株)荏原製作所		1		1
34	遠藤科学(株)		1		1
35	(株)大塚製薬工場		1		1
36	(株)大林組		1		1
37	(株)岡山村田製作所		1		1
38	岡山理科大学			1	1
39	沖繩電力(株)		1		1
40	沖本初建築設計事務所		1		1
41	(株)オノコム		1		1
42	オリオン電機		1		1

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
43	オリンパス工学工業(株)		1		1
44	花王(株)		1		1
45	(株)角藤		1		1
46	関西電力(株)		1		1
47	(株)管理工学研究所		1		1
48	(株)岐阜セラック製造所		1		1
49	キャタラー工業(株)		1		1
50	キャノン(株)		2		2
51	キャノン化成(株)			1	1
52	(株)協栄製作所		1		1
53	極東開発工業(株)		1		1
54	(株)きんでん		1		1
55	(株)熊谷組		1	1	2
56	クラリオン(株)		1		1
57	栗田工業(株)		1		1
58	KTIセミコンダクター(株)		1		1
59	(株)建設設計一級建築士事務所		1		1
60	(株)建設コンサルタントセンター		1		1
61	(株)構造計画研究所		1		1
62	(株)神戸製鋼所		2		2
63	興和(株)		1		1
64	国際航業(株)		1		1
65	(株)コスメック		1		1
66	コナミ(株)		1		1
67	(株)コンピュー・テクノロジー・インテグレイタ		1		1
68	(株)桜井システム		1		1
69	三栄ハイテックス(株)		1		1
70	三協アルミニウム工業(株)		1	1	2
71	三協フロンテア(株)		1		1
72	サンケン電機(株)		1		1
73	三精輸送機(株)		1		1
74	ジーエルサイエンス(株)		1		1
75	シロウマサイエンス(株)		1		1
76	(株)島津製作所		2		2
77	シャープ		4		4
78	(株)ジャストシステム		1		1
79	(株)住化分析センター		1		1
80	昭和電工(株)		1		1
81	ショーボンド建設(株)		1		1
82	新栄ダイカスト工業(株)		1		1
83	信越化学工業(株)		1		1
84	神鋼電機(株)		2		2
85	新東工業(株)		1		1

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
86	新日鉄情報通信システム(株)		1		1
87	新菱冷熱工業(株)		1		1
88	スズキ(株)		2		2
89	住商エレクトロニクス(株)			1	1
90	住友金属工業(株)		2		2
91	住友建設(株)		1		1
92	住友電気工業(株)		1		1
93	須山建設(株)		1		1
94	積水ハウス(株)		1		1
95	(株)船場		1		1
96	(株)総合企画		1		1
97	ソニー(株)		5		5
98	ダイダン(株)		1		1
99	大同メタル工業(株)		1		1
100	大日本印刷(株)		2		2
101	大日本スクリーン製造(株)		3		3
102	(株)太平洋エンジニアリング		1		1
103	太陽精機(株)		1		1
104	ダイワ精工(株)		1		1
105	大和ハウス工業(株)		1		1
106	高松建設(株)		1		1
107	(株)竹中工務店		1		1
108	タツタ電線(株)		1		1
109	(株)谷山建築設計事務所		1		1
110	中電コンピュータサービス(株)		1		1
111	中部ガス		1		1
112	中部テレコミュニケーション(株)		1		1
113	艶金興業(株)		1		1
114	(株)TYK		1		1
115	鉄道情報システム(株)		1		1
116	(株)天満堂		1		1
117	(株)デンソー		3		3
118	(株)デンソークリエイト		2		2
119	(株)土井組		1		1
120	東亜環境サービス(株)		1		1
121	(株)東奥日報社		1		1
122	(株)東海総合研究所		1		1
123	(株)東海理化電機製作所		1		1
124	東京電力(株)		1		1
125	(株)東芝		3		3
126	東陶機器(株)		1		1
127	東北エプソン(株)		1		1
128	東洋キャリア工業(株)		1		1

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
129	東レ(株)		1	1	
130	東レエンジニアリング(株)		1	1	
131	(株)トーエネック		1	1	
132	(株)トーメー		1	1	
133	(株)トクヤマ		1	1	
134	(株)巴コーポレーション		1	1	
135	豊田合成(株)		1	1	
136	トヨタシステムインターナショナル(株)	1		1	
137	トヨタ自動車(株)		1	1	
138	(株)豊田自動織機製作所		1	1	
139	トヨタホーム浜松(株)		1	1	
140	(株)トヨタマックス		2	2	
141	中日本建設コンサルタント(株)		1	1	
142	(株)長野液化		1	1	
143	ナショナル住宅産業(株)		1	1	
144	(株)ナムコ		1	1	
145	西松建設(株)		1	1	
146	日亜化学工業(株)		1	1	
147	ニチコン(株)		1	1	
148	ニッパ(株)		1	1	
149	(株)ニデック		1	1	
150	日本板硝子(株)		1	1	
151	日本化薬(株)		1	1	
152	日本軽金属		1	1	
153	日本鋼管(株)		1	1	
154	日本高分子(株)		1	1	
155	日本真空技術(株)		1	1	
156	日本信号(株)		1	1	
157	(株)日本製鋼所		1	1	
158	日本ゼオン(株)		1	1	
159	日本電気(株)		3	3	
160	日本電気ソフトウェア(株)		1	1	
161	日本電気マイコンテクノロジー(株)		1	1	
162	日本電気アイシーマイコンシステム(株)		1	1	
163	日本電産(株)		2	2	
164	日本電信電話(株)		10	10	
165	日本特殊陶業(株)		3	3	
166	日本ヒューレット・パッカード(株)		2	2	
167	ハイテック(株)		1	1	
168	バイオニア(株)		2	2	
169	パシフィックコンサルタンツ(株)		1	1	
170	日立建機(株)		1	1	
171	(株)日立製作所		5	5	
172	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)		1	1	
173	日立中部ソフトウェア(株)		1	1	
174	日立テレコムテクノロジー(株)	1		1	

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
175	日野自動車工業(株)		1	1	
176	平田機工(株)		1	1	
177	PPG Industries-Asia/Pacific Ltd.	1		1	
178	福島印刷(株)		1	1	
179	フクダ電子(株)		1	1	
180	富士機械構造(株)		2	2	
181	富士機工		1	1	
182	(株)フジクラ		2	2	
183	富士重工業(株)		1	1	
184	富士ゼロックス(株)		2	2	
185	富士通(株)		1	1	
186	富士通関西システムエンジニアリング(株)		1	1	
187	富士通コンピュータテクノロジー	1	2	3	
188	富士通VLSI(株)		1	1	
189	(株)富士通北陸システムズ		1	1	
190	富士電機(株)		1	1	
191	富士電気化学(株)		1	1	
192	富士電線電器(株)		1	1	
193	(株)フジヤマ		1	1	
194	扶桑建設工業(株)		1	1	
195	古河電気工業(株)		1	1	
196	ホシザキ電機(株)		1	1	
197	北海道電力(株)		1	1	
198	HOYA(株)		1	1	
199	本田技研工業(株)		1	1	2
200	前田建設工業(株)		1	1	
201	(株)マキタ		2	2	
202	松下寿電気工業(株)		1	1	
203	松下精工(株)		1	1	
204	松下通信工業(株)		1	1	
205	松下電器産業(株)		8	8	
206	松下電工(株)		2	2	
207	三井東圧化学(株)		1	1	
208	三菱自動車工業(株)		2	2	
209	三菱重工業(株)		2	2	
210	三菱電機(株)		1	1	
211	美濃窯業(株)		1	1	
212	ミノルタ(株)		1	2	3
213	美和ロック(株)		1	1	
214	(株)ムトウ		1	1	
215	(株)村上開明堂		1	1	
216	(株)村田製作所		2	2	
217	(株)明輝クリーナー		1	1	
218	(株)メイテック		1	1	
219	(株)明電舎		1	1	
220	(株)メルコ		1	1	

No.	企業名等	学部	修士	博士	計
221	矢崎総業(株)		1	1	2
222	矢作建設工業(株)		1	1	
223	(株)山下設計		1	1	
224	山之内製薬(株)		1	1	
225	ヤマハ(株)		2	2	
226	ヤマハリビングテック(株)		1	1	
227	ユシロ化学(株)		1	1	
228	横河アナリティカルシステムズ(株)		1	1	
229	横河デジタルコンピュータ(株)	1		1	
230	(株)淀川製鋼所		1	1	
231	(株)リコー		1	1	
232	菱日エンジニアリング(株)		1	1	
233	ローランド(株)		1	1	
234	ワコー樹脂(株)		1	1	
	小計		49	252	5 306

国の機関

1	茨城大学		1	1	
2	岐阜工業高等専門学校		1	1	
3	静岡大学		1	1	
4	仙台電波工業高等専門学校		1	1	
5	豊橋技術科学大学		1	1	
6	松江工業高等専門学校		1	1	
	小計		0	1	5 6

その他の公共機関等

1	愛知県職員		1	2	2
2	上浦町役場		1	1	
3	国分寺町役場				1
4	島根県職員		1	1	
5	東京都職員		1	1	
6	豊田市役所		1	1	
7	豊橋市役所		1	1	
8	東大阪市役所		1	1	1
9	四日市市役所				1
10	日本学術振興会				1 1
	小計		3	7	1 11
	合計		52	260	11 323

クラブ活動への援助報告

同窓会では、クラブ活動の活性化に貢献することを目的とし、以下の2種類の資金援助を行っております。

- (1) 対外的にもっともよい成績を収めたクラブに贈られる「クラブ奨励金」
- (2) 活発な活動を行っており、最も資金援助が必要なクラブに贈られる「クラブ援助金」

平成9年度はロボットコンテストにて優勝を飾った、ロボコン同好会にクラブ奨励金を、また、善行運動の推進につとめた団体に送られる日本善行会表彰をうけた豊橋日曜学校に、クラブ援助金を、それぞれ決定致しました。なお、この受賞を受けて本学学生表彰規定第2条第二号及び、学生表彰実施細則第2条2号(ア)に該当したとして本学学長より表彰を受けたことも合わせて追記致します。

ロボコン同好会

部長 小林 亘 允

現在のロボコン同好会の構成は、顧問を1系助教授の鈴木新一先生にしてもらっています。ですが、このほど鈴木先生が10月から10ヶ月間アメリカへ長期出張となり、その間の代理顧問として、2系の寺島一彦教授にお願いすることになりました。部員構成は、博士1名、学部4年8名、学部3年2名、学部1年15名、計26名で活動しています。

我々ロボコン同好会は、NHKが主催する「アイデア対決ロボットコンテスト」へ出場することを主として、各種のロボットコンテストへの参加をしています。

成績は、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、'94年初優勝、'95年優勝、'96年3位（堺市長賞）、'97年優勝しています。

同好会の年間スケジュールは、4月にNHKより募集要項、コンテストテーマが届くと、ミーティングを開き、アイデアを決め、NHKへ書類を送ります。



ロボコン同好会「ハイテクフェア出展」

その書類審査が合格した後、夏休みから本格的な制作に取り掛かります。'95年までコンテストは9月にありましたが、'96年から3月に変更され、製作は夏休みから3月までの8ヶ月間行われます。

大学公開や、10月初旬の技科大祭に前年のロボットを展示したり、今年度からですが、

ミニロボコンを催したりしています。10月中旬には豊橋祭りの一環として催される「子供のための科学展」へロボットを出展しています。そして、3月に「NHKロボコン」へ出場しています。

さらに'96年'98年4月に豊橋サイエンスコアで開かれた「ハイテク・フェア」にもロボットを出展させました。

現在は授業後夜遅くまでロボットの製作をする毎日です。今年度は特に1年生の入部が多く、しかも積極的に活動してくれるので制作現場は毎日活気に満ちています。

最後になりましたが、同窓会からの御援助ありが

とうございます。この期待に答えられるように次のコンテストも優勝を目指して全員でがんばっていきますので、応援よろしく願いいたします。

ロボコン同好会では、ホームページを設置して、

活動状況、ロボコン関係の情報等を公開していますので、興味のある方はぜひ下記アドレスまで1度お立ち寄りください。

<http://www.procon.tutpse.tut.ac.jp/~suzuki/robokon/>

課外活動団体「豊橋日曜学校」について

知的障害者への支援活動を目的とする課外活動団体で、愛知大学、及び愛知県立保育大学などの学生とともに障害者との交流を行う等、多年にわたり福祉活動を行っている。

豊橋日曜学校

代表（生産システム3年）松 井 孝 志

豊橋日曜学校は、豊橋近郊に住む心身障害を持った子どもと、その親と、私達学生とで遊びに出かけたりゲームをして、一日を共に楽しく過ごすことを目的としたサークルです。一カ月に一度、日曜日に活動を行うことから日曜学校の名が付けられました。サークルの歴史は古く、今年で25周年を迎えました。私達の生まれる前から、25年間絶えることなく、月に一度のイベントが企画され、実行されてきたのです。現在のメンバーは子ども40人、その親40人、学生69人の計149人です。運動会やクリスマス会などの特別なイベントのときには、豊橋日曜学校を卒業した子どもや、OBの学生も招待するので200人近いメンバーが一同に会することもあります。

サークルの運営は、大学、短大、専門など7つの学校から集まった学生が行っています。イベントのための事前ミーティングを月に2～3回開き、子どもの安全を第一に、そしてより楽しい一日になるように議論を重ねます。授業が終わり、学生が集まり、夕方から始まった討論は、ときに深夜に及ぶこともあります。しかしサークルの主役は学生ではなく、あくまで子どもです。イベントの当日に「子どもが楽しめるかどうか」、この原点を私達はミーティングの度に見つめ直し、イベントのプログラムの隅々にまで目を光らせます。

昨年度は、クッキー作り、プール遊泳、バーベキュー、ボーリング、海水浴、キャンプ、運動会、いも掘り、ハイキング、クリスマス会、もちつき、成人式、豆まき、卒業式など四季折々のイベントを行いました。もしイベント当日が、雨に降られてしまった場合でも楽しめるように、雨天用のプログラムも考えるので、実際には倍近いイベントが企画されたこととなります。企画、立案が用意周到であったからこそ25年間続けて来られたのだと思います。

イベントの当日は、ひとりひとりの子どもに、ひとりづつ学生が担当として付き添い、一日を過ごします。親はその様子をそばで見守ります。基本的には2年間おなじ子どもの担当をします。それでも子どもとコミュニケーションをとることは容易ではありません。しかし、子どもや親とのふれあいの中で、自分ひとりでは体験できないことや、新しい発見をしたり、思いがけず感動を味わうこともあります。学生だけでなく、子どもも親も、みんな一緒に感動を味わいたい、その一心で私達はこれからも活動を続けていきます。

興味のある人なら誰でも参加できます。ぜひ一度遊びに来てください。

「表紙写真参照」

同窓会事務局より会員の皆様へ

ご挨拶

同窓会会長（2系5期） 近藤 秀範

(E-MAIL:kondo@hbr.co.jp)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

あまりうれしくない話題ですが、昨今、大学の同窓会名簿を利用していると思われる勧誘活動がなされているという報告を受けております。名簿に掲載されている会員宛てに名指しで「技科大卒業生の皆さんには、お世話になっています」等の電話による、商品先物取引や、資格講習などの商業的勧誘が横行しています。これらのことと同窓会は、一切関係ないことを皆さんにご報告致します。これらの業者とトラブルが生じましても同窓会では、関知できませんのでよろしくお願い致します。また、同窓会では、名簿は、厳重に管理しており、このような業者への漏洩は決してありません。名簿は、会員のみへの頒布となっていますので、会員の皆様に置かれましても名簿の取扱いには、充分なご留意をいただきますようお願い申し上げます。

景気も沈みがちな世相ですが、あと1年もすれば、21世紀到来です。新しい時代です。ここは一つ、皆様の力を持ちまして、明るい未来に向けて、活気ある世の中の実現に向け、皆様のご活躍を期待してまいりたいと願っております。

技科大出身であることを誇りに社会に貢献し、景気を高揚させていけるよう努力していきたいと考えております。

最後に、同窓会では、同窓会の仕事を手伝っていただける会員の方を募集しております。大学の教育、研究、学生活動をバックアップし、同窓会会員同士の親交のための仕事をしています。会員の皆様も何かとお忙しいことと存じますが、何卒、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。また、同窓会に対して、こんなことができないか、こうした方がいい等、ご要望、ご意見等がありましたら、ご遠慮なくご連絡ください。

皆様のご多幸とご活躍を豊橋の地よりお祈り申し上げます。

…………… 同窓会事業報告および予定（平成9年度～平成10年度） ……………

1. 会報の発行

平成9年度の会報（15号）を、予定より遅れて平成10年5月に発行した。本号は、役員会時点で平成10年12月発行の予定である。

2. 技科大祭への資金援助

平成9年度も10万円の援助を行った。平成10年度も同額の援助を行う。

3. 卒業記念パーティの開催

新会員の同窓会活動への理解を深めてもらうために、在学生で構成される学友会との共催で、これまで毎年開催してきた。パーティへの出資は、例年通り25万円とした。平成10年度についても、同様とする。

4. 技科大祭への資金援助

在校生へ同窓会の存在をアピールするために、平成6年度から技科大祭に資金援助を行っている。本年度も、例年通り、10万円の資金援助を行った。平成10年度も同額の援助を行う。

5. 平成10年度から新たに行う事業

同窓会ホームページを計画している。また、クラブ活動への援助を予定しており、予算として10万円を計上している。

6. 平成10年11月現在の同窓会役員名簿（※は、本学教官以外の役員）

名誉顧問：後藤圭司学長

- 1系（名簿，総会担当）：柳田秀記，感本広文
 2系（事務一般・副会長）：近藤秀範（※，会長），橋爪 進（※），戸田裕之（事務一般，副会長）
 3系（会計担当）：村本裕二，見目喜重
 4系（ホームページ担当）：中内茂樹，甲斐充彦，合志和洋，竹部啓輔
 5系（会報担当）：佐藤裕久，大北博宣，武藤浩行，斉戸美弘
 6系（総会担当）：山本一伸，野沢隆秀
 7系（ホームページ担当）：渋谷博幸，吉田 浩，加藤博明

会費の納入のお知らせ

本会の会費は平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業生，修了生で，入会費または終身会費が未納の方は，該当する系の振込先へ納入下さるようお願いいたします。

会 費

入会金	5,000円
終身会費	10,000円

振込先

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305
 加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

2系：郵便振込

口座番号 00890-1-124555
 加入者名 豊友会

3系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

4系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

5系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362
 口座名 物質工学系同窓会

6系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330
 加入者名 建設工学同窓会
 （幹事長 高島英幸）

7系：住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 368127
 口座名 豊橋技術科学大学同窓会

熱意ある

同窓会スタッフ

を求めます

- 応募資格：TUT修了・卒業の方
 （名古屋，豊橋近郊）
 勤 務：年3回程度の会議
 及び自宅での作業（約30hr／年）
 待 遇：同窓会規定により優遇
 交通費支給
 問い合わせ先：TUT同窓会事務局

同窓会平成9年度収支報告および平成10年度予算案

項 目	平成9年度予算案	平成9年度決算	平成10年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	6,287,168	6,287,168	7,142,292
入 会 金	2,000,000	2,155,000	2,150,000
会 費	4,000,000	4,310,000	4,300,000
預 金 利 息	60,000	12,114	15,000
名 簿 代 金	0	7,000	—
20周年寄付金	0	5,000	—
同窓会報発送代行費用	0	791,088	900,000
小 計	6,060,000	7,280,202	7,365,000
収 入 合 計	12,347,168	13,567,370	14,507,292
■支出の部			
会 報 経 費	690,000	788,420	800,000
印 刷 代	650,000	756,420	760,000
原稿執筆御礼	40,000	32,000	40,000
役員会経費	50,000	16,000	30,000
通 信 費	10,000	0	0
資料作成費	10,000	0	0
役員手当	30,000	16,000	30,000
同窓会名簿	0	680	—
卒業記念パーティー援助金	250,000	250,420	250,000
技科大祭後援金	100,000	100,420	100,000
会報封筒作成代	100,000	96,420	120,000
名簿管理代	420,000	0	840,000
庶務経費	100,000	71,630	100,000
同窓会報発送代行費用	0	791,088	900,000
クラブ活動資金援助	—	—	100,000
各系への会費の配分金	4,000,000	4,310,000	4,300,000
小 計	5,710,000	6,425,078	7,540,000
次年度繰越金	6,637,168	7,142,292	6,967,292
支 出 合 計	12,347,168	13,567,370	14,507,292

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名 (庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。
 第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。
 第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

- 第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

- (6) 監査
- (7) その他、本会の事業全般

- 2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

広報担当者 様

豊橋技術科学大学同窓会誌広告掲載のご依頼

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当同窓会では、より円滑な運営を図るべく、同窓会誌に広告を掲載することに致しました。

つきましては、下記のように掲載広告を募集していますので、広報担当者にお口添えくださいますようお願い申し上げます。

発行後、見本として5冊は無料でお送りしますが、その他は有料（500円/冊）となります。6冊以上必要な場合は版下送付の際にお申し添え下さい。

ご多忙中、お手数をお掛け致しますが、宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

1998年12月15日

豊橋技術科学大学同窓会 会長 近藤 秀範

記

◎同窓会誌： A4判、30ページ程度、白黒

(1) 内容……学内近況報告、研究室紹介 等

(2) 発行……年1回

(3) 部数……約7000部 *今後500部/年で増加

◎広告掲載料： 5万円/1ページ、3万円/0.5ページ

◎送付先： 豊橋技術科学大学同窓会

愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1 〒441-8580

◎締め切り： '99年9月末日

◎支払い方法： 銀行振込 *発行後、請求書をお送りします。

◎問い合わせ先： 下記まで郵送にてお願いします。

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学同窓会 事務局

求む!

投稿・表紙!!

■表紙

写真, 絵, グラフィックデザイン等何でもOK!

・サイズ: A4判程度に縮小, 拡大可能なもの。

※CM的な要素のものを除く。

採用の場合は薄謝を送付致します。

■投稿

26字/行 横書き 厳守

その他: 内容・長さは問いません。写真も添えていただければ幸いです。

随時, 受け付けますので下記まで送付下さい。

〒441-8580 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学内
豊橋技術科学大学同窓会事務局
同窓会誌 編集係

■会員からの一言

同窓会では会員の皆さんからの原稿を常時募集しておりますが, 執筆するとなると, それなりの内容とある程度の長さが必要であるということで, ついついかしこまってしまうのではないのでしょうか。そこでもっと気楽に投稿していただけるように, 「会員からの一言」というコーナーを設けたいと思います。「結婚しました」とか「?月?日OB会開催」といった簡単な近況報告や連絡事項など, 内容, 長さは問いません。住所変更の通知や会費振替用紙の通信欄にでも結構ですし, もちろん葉書, 封書で直接送っていただければ大歓迎。原則としてすべて掲載する予定ですので, どしどしお寄せください。投稿の際には, お名前, 卒業あるいは修了年度, 学科名をお忘れなく!

「頼まれた原稿は 今すぐポストへ」

編集委員からのお願いです。

.....

同窓会事務局より 会員の皆様への御留意

最近、本学同窓会会員に対して「各種の勧誘」が頻繁になされているとの情報が入っております。豊橋技術科学大学同窓会事務局では、名簿データの管理は厳重にしており、これまで部外者への名簿の譲渡や貸し出しは一切行っておりません。従いまして、これらの勧誘には本学同窓会事務局は一切関わりないことを御断わりするとともに、会員の皆様におかれましても、十分注意していただくことをお願い申し上げます。

豊橋技術科学大学同窓会事務局

.....